

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600285		
法人名	サントラフィック株式会社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	三重県津市戸木町4113-56		
自己評価作成日	令和3年6月11日	評価結果市町提出日	令和3年8月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=2470600285-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=2470600285-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和3年7月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現場独自のモットーとして数年前から「笑顔・家族」を取り入れ接している。天然温泉大浴場があり、広々と入浴している。コロナ禍で外出は出来ないが、毎月工夫して行事をしたり、レクリエーションをしている。自然豊かな環境で「東屋ガーデン」を造り、散歩コースにもなっており、野菜や花を育てている。外国人実習生も1名おり、溶け込んでいる。災害対策にも近年力を入れており、備蓄の管理や地域の方への協力も実施している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津市郊外の高速久居インター口より西に向かい、風早の住宅団地や花園の緑に囲まれた小高い丘に立地している事業所である。1階がデイサービスで2階がグループホームの生活の場である。1週間に1度運ばれる榊原温泉の名湯を濾過循環し、午前のデイサービス入浴の後、利用者は午後から1階大浴場で源泉の湯を五感で味わって貰える様支援している。訪問当日、居室前廊下に置かれた椅子に利用者同士が腰掛けて、職員も入って談話する姿が見られた。仲良しのご近所やお向かいさんの様な笑顔で温かい光景であった。「笑顔・家族」の理念が相互に反映され、実践に活かされている様である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現場独自の理念である「笑顔・家族」を職員間で浸透している	「笑顔、家族」の理念を根幹に、利用者・家族・職員間でも利用者の瞬間の表情も大切に汲み取り、支援の実践に繋げている。職員間のコミュニケーションにも浸透し、無意識の中にも「笑顔」が取り込まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりとして餅つき・夏祭り等あり交流の場を作っている	地域の草取りや清掃活動には、代表者と管理者が参加して交流の場を持っている。昨年12月コロナ予防対策万全の上、利用者と地域自治会役員一部の方により「餅つき大会」が実施された。今後も状況判断の元、地域と交流の企画を話し合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで包括支援センターの方から話をしてもらい参考にしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接のグループホームと合同で実施している。家族の参加は今のところないが地域の方と状況報告している。	コロナ禍での対策や状況判断の上、会議は年度に6回開催され、質疑応答内容等も議事録に有り、資料も提供されている。家族参加への呼び掛けや参加拡充には現在も継続して取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な時は本庁(介護保険課・援護課)に出向き意見交換等している。コロナ対策や災害対策で連絡もしている。	津市久居総合支所が久居駅近くに移転され、介護保険関連やコロナの情報確認と相談事に出向き、協力関係を築いている。ファックスでの情報や連絡も届き、参考に取入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に数回定例会議後勉強会をし理解を深めている	「ふるさと会議」の中で「身体拘束」に掛かる勉強会や話し合いを年4回行い、欠席職員はレポート提出が有り、全員で認識と共有出来る仕組みが設けられている。生活環境が2階であるが閉鎖的にならない様、個別や合同で楽しく一緒に出来る事を実践し、寄り添うケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に数回定例会議後勉強会をし理解を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県や市の資料等活用し理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より入居前の契約時等に細かく説明し理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが、要望などあった際は、直接管理者や職員に伝えてくれている。その後連絡ノートを活用し、職員で共有している。	ご意見用紙がエレベーター内に設置してあるが、投稿は出ていない。担当制は無く、管理者不在時に全職員がどの家族とも要望や質疑に応じ、早く正確な対応で連絡ノートに記録がされ、家族からは安心の声が聞かれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週2回本社会議と月1回の職員会議を設け、意見や提案に応じている	基本は3か月に1回個別面談を行うが、日常の気軽な会話での希望や想いも含めて管理者は受け止め、社長に文書で提出し必ず回答確認して対応している。外国人実習生は介護全般を学ぶ姿勢が熱心で、職員達にも良い刺激となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の職員の状況を把握し、理解し、必要に応じて代表者に話をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接施設(グループホーム・デイサービス・ショートステイ)の職員と合同研修会があり学習する機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	委員会(研修・行事)や勉強会を通じてサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員同士普段より「気付き」を大切にし、不安の解消に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心となり親身になって耳を傾け、気軽に相談できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提携医や他の関連施設と連携しながら対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現場の理念である「笑顔・家族」の気持ちを大切に関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の時点で「事前調査票」を作成しており入居後は参考に職員が対応し共有している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の外出は基本的には家族が対応しているが、時には管理者が同行したり支援している	編み物好きな利用者の毛糸の買物に管理者は同行し、品選びや支払いも横で見守り支援している。利用者は其れが自慢で、又帽子等編んで人にあげている。これまで大切にして来た馴染みの行動の支援を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室で過ごされたり、レクリエーションや行事の際に関わりながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後家族から連絡があれば適切に対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から言動や行動を確認し、声掛けの重要性を認識し、一人一人に寄り添い支援し職員間で情報を共有している	管理者は何より傾聴が大事だと全職員に伝え、言葉で無くとも表情で掴み、普段との違いを見分ける支援に努めている。其れにより、職員の眼差しが大変に優しく感じられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等から生活歴を聞き、事前調査票を作成し参考にしながら状況を把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回(起床時・13時)バイタルチェックをしており、居室やホール・居間の温度・湿度管理の徹底もしている。少しの異変でもすぐに対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で課題などを議論し、ケアマネージャーが文書作成し管理者・職員が家族に報告している	介護計画は長期1年、短期6か月としてプラン見直しに取り組んでいる。家族との話し合いや説明は、全職員がいつでも出来る様にと熱心にモニタリングとプラン見直しに取り組み、家族との関わりを大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡・受診ノートや介護記録を主に職員間で共有し、早期解決しなければならない事は職員だけでも(管理者不在時)決定していることもある。しっかり連絡ノートに記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人の思いや家族の思いに寄り添いながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員同士常に話し合い、いろんな知恵を出しながら、楽しめるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医が訪問診療に来訪している。緊急時の対応など助言ももらっている。家族が受診付き添い時は管理者が同行する時もある。臨機応変に柔軟に支援している	1名が従来のかかりつけ医で家族対応、他の利用者は協力医の訪問診療である。夜間緊急24時間、協力医携帯と繋がり安心である。救急要請情報提供書が利用者全員のカルテ1ページ目に有り、昼夜準備万全である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接するデイサービスやショートステイの看護師に助言をもらい対応している時もある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が中心となり病院関係者などと情報交換しているが、場合によっては隣接施設のショートステイにも支援してもらっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関しては設備上の関係もあり進んでは対応していないが、入居後に終末期ケアの対応をしたケースはある。提携医と家族と職員に管理者が相談し最終的に支援した。	居室環境や設備上、入居時家族には終末期対応が困難である事の了解は得ている。グループ事業所内で可能な施設転居等、必要な意思確認を取り乍ら、最大の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的には救急要請だと思うが、緊急時対応の勉強会やマニュアルを参考にし訓練している。発生時に混乱しないよう日頃から頭に入れて対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(内1回は施設のみ)消防訓練を実施しており、消防隊員と意見交換したりし不安解消に努めている。自治会には運営会議の際にお願いしている。AED使用も全職員対応できる体制である。停電も多い地域であり備蓄や備品の管理もしっかりしている。	消防署立会の避難訓練を年1回と、事業所独自の訓練も実施している。停電対策用蓄電池購入への準備が始まり良い方向に進み出した。備蓄品明細・火災受信機復旧手順・緊急連絡網等、ファイル化されている。	災害時には地域住民の協力者が重要である。避難訓練時に自治会役員や地域住民へ見学を呼び掛ける等、事業所の現況を見て感じて貰える機会を是非とも計画される事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室にトイレがあり安心している様子である。失禁時には特に本人を傷つけないように声かけし対応している。	排泄汚染を各居室で片付けて部屋を出る時周囲の目が気になる為、居室に新聞紙を置き包んで持ち出す様に改善された。一人ひとりの自尊心を大切に出来る様な工夫を常に意見交換している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	第一は入居者様の思いであると考えており、出来る限り希望に添えるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は話し合いながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	マニキュアや帽子などでおしゃれを楽しんで見える方もいる。出来る限り本人の思いを尊重し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料は業者委託のためメニューは決まっている。基本的に職員が調理しているが、調理・盛り付け・片付けを入居者様に手伝ってもらう時もある。誕生日には赤飯を炊いてお祝いをしている。	食材とメニュー表が業者から届き、職員が調理し、テーブル拭きや洗い物は利用者が活躍している。誤嚥の心配な方は刻みで提供し、動作が早くなると職員がそっと腕に触れ「早いですよ」と優しく声掛けする様子は、楽しい食事支援の場面である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者委託で材料・メニューも決まっており、栄養バランスはしっかりしている。味付けは濃すぎないように気を付けている。嚥下状態によっては副食を刻みにしたり体調不良時は雑炊やお粥にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア見守り確認や毎週日曜日の昼食後にポリデント洗浄対応確認し支援している。必要時には歯科訪問診療をお願いし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレが設置してありプライバシー保護には対応している。個々に合わせて排泄誘導時間を決めて対応している。	居室にはトイレが設置され、布パンツで自立が2名、他の方は紙パンツ使用である。排泄間隔や表情を見ながらトイレ誘導は「ちょっとお部屋に行きませんか」とさり気なく声掛け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ストレスを溜めないよう、お口の体操等取り入れて支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決まっているが、希望に応じて出来る範囲で支援している。温泉の湯があり大浴場でのんびりと入浴している。	男女交互に1人が1日置きの入浴である。1階デイサービスの空いた午後からで、大きな浴槽に4~5人が楽しく寛ぐ時間である。お湯は榊原温泉の名湯で、お風呂嫌いの方も無くのんびりと豊かに気分良く喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にも休憩時間を設け、その時にお昼寝をされる方も見える。有意義に時間を使えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表と受診ノート活用し、職員がしっかり把握できるようにしており、変化があれば相談する体制も整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や歌、貼り絵などしたり、趣味で編み物を作ったりする方もおり、状況に応じて個々の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で行事が外で出来ないため厳しいが、コロナが収まったらまた以前のように、ドライブに行ったりしたいと思っている	コロナ禍で外出制限の為、ベランダに出て高台からの景色を眺めたり、日曜日デイスーツお休みには、玄関先やテラスの屋外でおやつとお茶を楽しめる時間を支援している。今後の状況を見ながら、利用者が楽しめるドライブなどを計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所でしているが、希望があれば管理者や職員と買い物に出掛けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ふるさと便りを年に6回送っている。希望があれば電話対応などにも沿えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体檜を使っており、掲示板などには作品や行事の写真も貼ってあるため、季節が感じられる空間である。なるべく部屋に閉じこもらないよう声かけしている。	2階玄関より、全体に落ち着いた木目の自然素材の壁や床の造りである。床は職員が定期的にワックス磨きを行い、木の自然素材が保たれている。リビングや廊下の壁には、季節毎の利用者合同作品が掲示されている。全室のベランダが繋がっており、外の空気と下界の眺めを楽しめる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間が狭くあまりないが、その中でホールに椅子を並べ会話やレクリエーションをして楽しく過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い慣れたもの(衣装ケース・着物など)を持参している方も見える。本人が気持ちよく暮らせるよう支援している。	居室の壁下半分が木製腰板の落ち着いた造りである。洗面台・トイレ・オープンクローゼット・ベッド、高所には棚が設置され個々の好みや動線に合った配置である。床暖房で冬は暖かく快適で、家族写真や作品、使い慣れた椅子と机等が置かれ、安心に繋がる工夫がされた生活の場である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	狭い空間ではあるが、職員は色んな工夫をしながら安全に暮らせるよう支援している		